
きっと伝わるよ。 1 話

めいた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きつと伝わるよ。 1話

【Nコード】

N3060P

【作者名】

めいた

【あらすじ】

主人公：刹那と友達：祐樹の学園小説です。

きつと伝わるよ。 1章

「今、俺の願い事が叶うならもう1度君に会いたい。」

俺の名前は、上田刹那。（ウエダ セツナ）

俺がこうなったのはちょうど1年前。

あの時は俺も反抗期ではむかってばかりだった

今思えば馬鹿馬鹿しい事だった事にすぐに怒ったり、夜遊びしたり

本当にダメな人間だった。

お母さん：「こら、早く起きなさい!!」

刹那：「うるさい」

俺の朝はいつもお母さんが怒って僕が反抗する。

お母さん：「行つてらっしゃい」

刹那：「・・・」

今なら言える「行つて来ます」って

だけど俺は言えなかった。

裕樹：「おっはよー刹那」

このうるさい奴が浜田裕樹

ハマダユウキ

中学校からの親友。

刹那：「何だよ、朝からうるせえな」

裕樹：「何だよじゃねえーよ、もっとテンション上げてこっぜ」

本当にうるさい奴

でも憎めない奴。

キンコーン カンコーン

裕樹：「ああー勉強だり」

刹那：「・・・」

裕樹：「おい、刹那？起きてる？」

刹那：「・・・起きてる」

裕樹：「なら返事ぐらいしろよな」

刹那：「・・・」

裕樹：「まあいいヤッ昼飯食おうぜえ」

ガサガサとコンビニの袋からおにぎりを4〜6個だす裕樹。

こんなに食うのかコイツって思ったりなんかした。

裕樹：「ん〜♪．．あれ？刹那、昼は？？」

刹那：「．．．忘れた」

裕樹：「そーゆー事なら．．．はいッ俺の3個やるよ」

そつ言つて裕樹は俺におにぎりを3個わたして来た。

良くそのおにぎりを見たら全部ツナマヨでちよつとびびった。

でも、嬉しかった。

刹那：「3個ももらっていいのか？」

裕樹：「当たり前、だって刹那は俺の親友だもん」

刹那：「．．．．．／／／．．あつそ．．．」

俺はそのおにぎりを照れながら食べた。

その時のおにぎりはいつも倍以上に美味しくって嬉しくってこれが親友なのかな？って事を想像しながら授業をうけていた。

時が止まってくれたら良かったのに

こんな気持ちですつといられて

お母さんもずっとこの世界にいられたのに・・

きつと伝わるよ。第一章

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3060p/>

きっと伝わるよ。 1話

2010年12月5日03時53分発行